

中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）

発行人 南部 美智代

No. 189

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町 3-8 中北ビル 5F

Tel 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>

まもなく開催！ YouTubeLive 生配信 ぜひご視聴ください！

2022 年度 全国研究集会 in 静岡

中央労福協は 2022 年 6 月 2 日（木）14:00～16:30、「2022 年度 全国研究集会 in 静岡」を開催します。第 1 部については YouTubeLive で生配信しますので、加盟団体関係者のみならず、広く役職員・組合員、友人・知人、ご家族、一般の皆さまなど、視聴の呼びかけをお願いします。当日は全国どこからでも、どなたでも、PC やスマートフォンからアクセスし、参加頂けます。



本研究集会の特設 Web サイトを 5 月 18 日に開設しました。詳しくは左の QR コードから特設サイトにアクセスして確認して下さい。

◀ 詳しくはこちらから！

2022年度 全国研究集会 in 静岡

“TSUNAGARI”
世代を超えて。

2022年
6/2(木)

第1部 ハイブリッド開催 ▶▶ YouTube Live 生配信
14:00～16:30

第2部 リアル開催のみ ※ライブ配信は致しません
16:45～17:30

第1部は ▶▶ YouTube Live にて生配信！どなたでも視聴できます！
オフィシャルYouTubeチャンネル「ろうふくTV」から、YouTube Live で生配信します！
※第2部は会場に実装してご参加頂いた方のみが参加可能です。YouTube Live での生配信は第1部のみとなりますのでご注意ください。

右のQRコードをスマートフォンで読み取り、特設サイトにアクセスすることで検索できます。PCを使用される方は「中央労福協」Webサイトよりご視聴ください。

詳しくはこちら ▶▶ <https://www.rofuku.net/> 中央労福協

第 93 回メーデー中央大会 復興続く福島 の農業を応援

売上金はウクライナ救援、
在庫は生活困窮者支援へ。



当日の販売ブースの様子



寄贈の様子（左からつくりい東京ファンドの小林美穂子様・稲葉剛様、中央労福協の南部美智代事務局長）

中央労福協は 4 月 29 日、東京・代々木公園で開催された第 93 回メーデー中央大会にてブースを出展し、東日本大震災からの復興を続ける福島県の農業を応援するとともに福島県のお米のおいしさを発信する目的で、福島県産ブランド米の販売を行った。

お米は、福島県労福協を通じて、J A 福島（J A パールライン福島株式会社）から仕入れ、福島県のブランド米である「福、笑い」と「福島県産コシヒカリ」の 2 銘柄各 2 合（300g）ずつを 1 セットとして計 161 セット販売した。

売上金は全てウクライナで危機にさらされている多くの難民・被災者を支えるため、連合「ゆにふあん」を通じて、

国連 UNHCR 協会と日本ユニセフ協会に寄付し、また残在庫 180kg は、東京を中心に路上生活者や生活困難者の支援活動を行う一般社団法人つくりい東京ファンドに食糧支援として寄贈した。

No.189 Topics

- 2 面 第 20 回 Web 学習会：フリーランスの実態と課題
第 2 回幹事会をハイブリッド開催
- 3 面 連載「助け合い・支え合いの現場から」第 5 弾第 3 回
- 4 面 連載 74 熱狂のあとに残るもの
公益社団法人教育文化協会からのお知らせ

第 20 回 Web 学習会

フリーランスが置かれている課題と解決の方向性

中央労福協は 5 月 10 日、一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会代表理事の平田麻莉氏を講師に招き、フリーランスについての認識を深める学習会を開催し、108 名が参加した。

「フリーランス」とは玉虫色の言葉であり、人によって働き方や課題は千差万別であること、フリーランスは「事業者」であり、働き方の裁量と経済自立性を前提に自律的な働き方をしていると説明。

一方で、フリーランスの中には交渉力や専門性、スキル等のノウハウが少なく、「準従属的労働者」と呼ばれる働き方をしている方が存在しており、この方たちには労働法に準じた保護を適用させるなど問題解決が必要であると述べた。

また、平田氏は労働者とフリーランスにはセーフティネット格差があるとし、特に出産・育児、介護等は働き方の違いによるものではなく「ライフリスク」であるため、働き方に中立な社会



保障が必要であると熱く語った。

学習会の中では、フリーランス協会が実施した「フードデリバリー配達員実態調査」の結果を紹介し、フリーランスの中でも特に注目を集めているフードデリバリー配達員の実情について認識を深めた。

学習会後、参加者からは「フリーランスへのセーフティネットづくりが必要」「フリーランスに抱いていた先入観と実態が色々な面で違うことに驚いた」「フードデリバリー実態調査の結果は衝撃的だった」などの意見が寄せられ、中央労福協では、今後もフリーランスに関する認識・理解を進めていく。

2022 年度「政策・制度に関する要求と提言」を決定 第2回幹事会をハイブリッド開催

中央労福協は 5 月 11 日、東京都内の会議室での実開催方式と ZoomMeeting によるオンライン開催方式を組み合わせ合わせたハイブリッド方式で、第 2 回幹事会を開催した。事務局の自前でのハイブリッド開催は初の試みで、実参加 11 名、Web 参加 26 名の合計 37 名が出席した。ポストコロナ社会を見据えた新しい会議のカタチへのチャレンジ、実践となった。

本幹事会では 2022 年度「政策・制度に関する要求と提言」を確認した。今年度の要求項目は最重点項目 3 点、重点項目 6 点と 9 つの各論で構成した。長きに渡るコロナ禍は、そもそも日本社会が抱えていたセーフティネットの脆弱さを浮き彫りにした。政府が行ったさまざまな緊急対策や特例措置を時限的・一時的なものとするのではなく、必要なものは永続的・恒常的な制度としていく必要があり、今要請ではこれらを重点的に求めていくものである。要請行動は 5 月中旬頃から展開していく。



また、2022 全国福祉強化キャンペーン取組方針（骨子案）、所得連動返還型奨学金制度の改善に向けた取組や「(仮称) わかりやすい奨学金ガイドブック」の制作、奨学金返済者の実態を把握し、運動課題を洗い出すための Web アンケートなど、今後取り組みを進める各議題について確認した。

連載

助け合い・支え合いの現場から 第5弾

一般社団法人埼玉県労働者福祉協議会
前専務理事

永田 信雄 さん

第 4 回

埼玉労福協と震災避難者支援② ～労福協だからできたこと～



ハワイアンへのバス旅行

2011 年の手帳を開いてみると、4 月 20 日 J A M 埼玉・男性用帽子 200 個と書いてありました。加須市の高校校舎で生活する双葉町民への寄付でした。教室で暮らす町民の楽しみは、水田に囲まれた校舎付近の散歩でした。散歩にはキャップが必要でした。おしゃれな帽子より、双葉町で身に付けていた kubota とカイセキのロゴが入った帽子が人気でした。

加須の景色がなんとなく双葉町に似ていたのかも知れません。

埼玉県内の避難所は 6 月末に閉所となり、3,000 人を超える避難者は「みなし仮設住宅」に移りました。「みなし仮設住宅」とは、国家公務員宿舎や U R 住宅、埼玉県営住宅、雇用促進住宅、民間賃貸住宅などを借上げて仮設住宅としたもので、避難者は住環境が改善された一方、知らない隣人と暮らす「新たな孤独」の始まりでもありました。そこで労福協は各地での「つながりづくり」に取り組むことにしました。

●「スパリゾートハワイアンズに行きたい」

ふじみ野市の避難者交流会「おあがんなんしょ」か

らスパリゾートハワイアンズに行けないだろうかとの相談があり、12 月 10 日、「ハワイアンズへの日帰りバスツアー」を実施しました。

朝、バスの中で「初めまして」と挨拶した参加者は長い車中での会話を通じてすっかり打ち解け、連絡先を交換して帰りの車内はまるで一つの家族のようでした。

●どうせなら、

「みんなでスパリゾートハワイアンズに行こう！」

12 月のバスツアーの成果（地域ごとの繋がりができた）を全県に拡大しようと中央労働金庫とヤオコー労組の支援を受けて、2012 年 3 月 25 日に県内 8 カ所からバス 10 台でハワイアンズへの日帰りバス旅行を行いました。

「ハワイアンズに行ける、福島に行ける」ということで、383 人が参加しました。会場では出会いの歓声があがり、笑い声と泣き声が溢れました。

この大規模な取り組みには 30 名のスタッフが必要で、その中心は地域労福協の役員や事業団体の職員でした。今から振り返ると労福協だからできたことだと思います。

熱狂のあとに残るもの

〜近づく参議院選挙を前に

熱狂のあとに残ったのは荒れ野だった。二〇〇一年四月二十八日、快晴だが風の強かった代々木公園の第七二回メーデー中央会場に、その二日前「自民党をぶっ壊す」と総理大臣に就任した小泉純一郎氏が登壇した時の光景が忘れられない。一目見ようと参加者が壇上前に大移動したため会場は砂ぼこりで前が見えなくなってしまうのだ。何かやってくれそうだという組合員の熱狂だった。

その四年後、今度は「既得権をぶっ壊す」と「郵政選挙」で大勝する。雨の日も風の日も配達する郵便局員を既得権にあぐらをかく公務員に仕立てた選挙だ。既得権を壊せば、トリクルダウンで恩恵がしたたり落ちてくると思われたのか、選挙後の連合総研調査によると、およそ既得権に遠いと思われる若い世代の女性の半数近くが自民党に投票したことが分かった。連合組合員の多くも小泉旋風に熱狂したのだった。

しかし、熱狂の後で冷静に振り返れば、トリクルダウンは起きなかったばかりか、貧困がより深まっただけだった。二〇〇八年暮れの年越し派遣村はそのことを可視化したのである。

常に、誰か外に敵を作りそれをたたきながら自らの存在感を示す小泉流の政治手法を、連合評価委員会の寺島実郎さん

が「新しいマッカーシズム」と呼んでいた。一九五〇年代前半、米国務省の中に二〇五人の共産主義者がいる、というデマから狂信的な反共運動が起きた、その狂信さに酷似しているというのだ。「未来に対する構想をもとに政治が語られるのではなく、不安や恐怖、憎悪の心理をテコにした政治」が跋扈していると。当時喧伝されたアルカイダ、テロ、大量破壊兵器、北朝鮮、イラク人質時の自己責任論など、政治が不安と恐怖を強調する、マスコミが騒ぎ立てる、まるで憑き物がついたように日本中が狂信的になる。「ちよつと待て」という理性的な発言はかき消されるだけでなく、それさえもが憎悪の対象とされてしまう。こうした政治手法はその後の安倍政権も同様だった。

そして、七月の参議院選挙直前の今、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻といった不安や恐怖が強まる中で、「解雇の金銭解決、農協の株式会社化、公務員の選挙活動の禁止、政府関係機関の民営化、カジノ推進、パチンコをギャンブルとして扱う」などの政策を掲げる野党に勢いがあるのだという。果たして、労働組合や協同組合陣営がこうした政策を受け入れられるのだろうか。

立ち止まって、冷静に将来を見据えて一票を投じよう。再び熱狂のあとに荒れ野を見なために。(高橋均)

公益社団法人 教育文化協会からのお知らせ

連合・教育文化協会共催 第19回

「私の提言」募集

募集
テーマ

「働くことを軸とする安心社会-まもる・つなぐ・創り出す-」の実現に向けて連合・労働組合が今取り組むべきこと
(オリジナルで未発表のものに限る)

応募締切 2022年7月25日(月) 必着

表彰

優秀賞	佳作賞	奨励賞	学生特別賞
表彰盾と副賞	賞状と副賞	賞状と副賞	賞状と副賞
20万円	10万円	3万円	12万円
			奨学金1万円×12ヶ月

☆応募者には、もれなく記念品を進呈(入賞者及び審査対象外となった方を除く)。

☆発表 2022年9月15日(木) 予定

応募資格

応募方法

どなたでも応募できます。 Webサイトの応募フォーム

応募・お問い合わせ先

公益社団法人 教育文化協会
E-mail info-ilec@sv.rengo-net.or.jp
電話 03-5295-5421

詳しくは

